

図書館総合展2022_ONLINE_plus
公共・大学・専門図書館のsaveMLAK COVID-19調査からの報告

専門図書館の COVID-19調査 からの報告

2022.11.10

関 乃里子

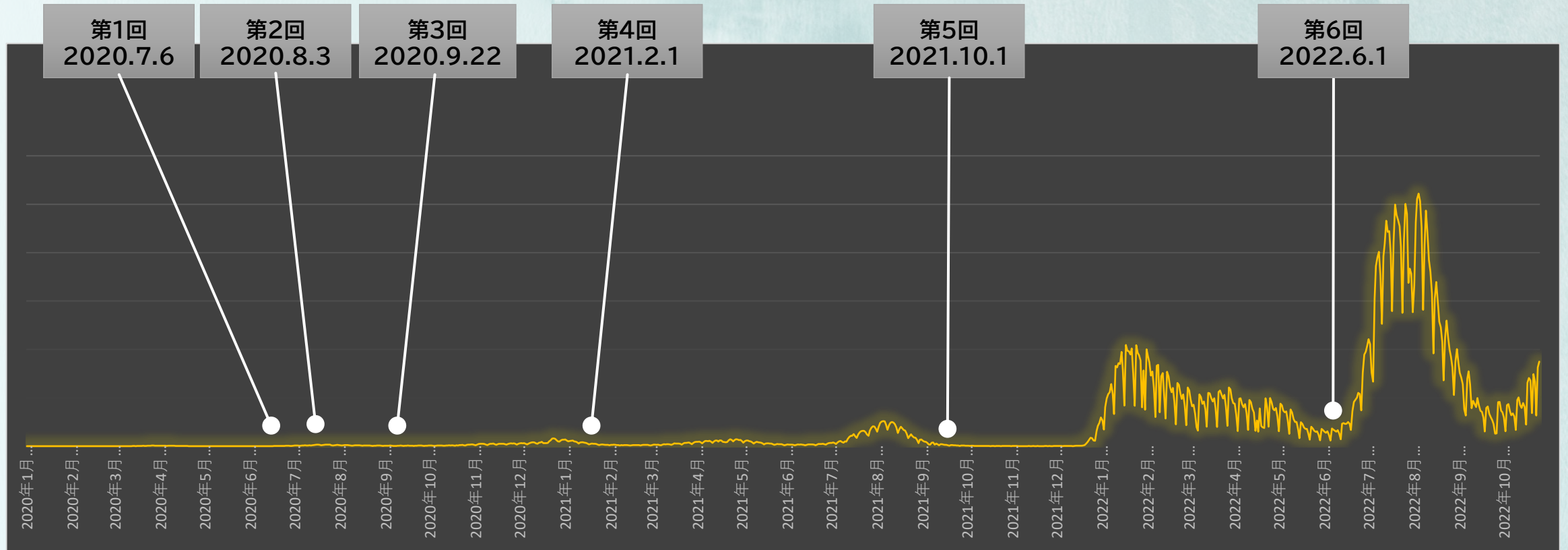
専門図書館調査のきっかけ

- 公共図書館調査への参加
- 有志でのミーティング(2020年6月8日)
 - まずは基礎リストを用意する(最初は網羅性は低くても良い)
 - そしてまずはミニマムな項目について調査する
 - 回を重ねるごとに対象館と調査対象項目を充実させていく
 - 調査項目は公共図書館のものが参考になるが、専門図書館として調査が必要な項目について方針を決める必要がある

基礎リスト候補

- カーリル(<https://calil.jp/library/special>)、dlib(<https://dlib.jp/>)
 - OPACがある図書館のみが対象。300館
- 専門情報機関総覧2018
 - 大学図書館や都道府県立図書館も多く含まれる。1645館収録。
- 東京都立図書館「専門図書館ガイド」(<https://senmonlib.metro.tokyo.lg.jp/>)
 - 「約 450 館の東京都内及び近県にある専門図書館等(特定分野の資料を所蔵する資料室や図書館の専門情報機関)」
 - 大学図書館等も多く含まれる

これまでの調査



データ出典：[厚生労働省オープンデータ](#) 陽性者数

これまでの調査

	プレスリリース	調査期間	調査対象館	調査参加者	備考
第1回	2020年7月6日	2020年6月11日～7月4日	300館	8人	カーリル収録の300館を対照
第2回	2020年8月3日	2020年7月29日～8月1日	300館	8人	
第3回	2020年9月22日	2020年9月18日～9月21日	837館	20人	休館105 調査対象に「専門情報機関総覧2018」掲載館を加え大幅拡大
第4回	2021年2月1日	2021年1月31日～2月1日	839館	22人	休館143
第5回	2021年10月1日	2021年9月25日～9月27日	864館	12人	休館159
第6回	2022年6月19日	2022年6月11日～6月17日	892館	9人	休館61

専門図書館調査の対象と調査方法

・対象

- ・ 主として、誰でも利用できる”公開型”の専門図書館
- ・ 第1回、第2回:カーリルの図書館データベースに掲載された専門図書館(300館)
- ・ 第3回以降:調査対象に「専門情報機関総覧2018」掲載館を加え800館余に拡大

調査における専門図書館特有の問題

- 調査対象について

- 網羅的な基礎リストが無い
- ウェブサイトに図書館の情報が無い
 - 公式サイトにはないがSNS上には情報があるケースも
 - 閉鎖されていると推測されるが確定情報が無いケースも
- どこまで対象とするか(規模、文学館、記念館、大学内、オンラインのみのサービス提供等)

コロナ禍でも
お知らせの最新が
数年前？！

フロアマップに
しか情報が無い！

- 開館・閉館の判断の難しさ

- 親組織や施設の開館との区別
- 閲覧室利用可能＝開館？
- サービス対象を内部利用者のみとするケース

OPACには開館と
なってるけど休館の
お知らせ

資料室って書いて
あるけど図書室？

開館・閉館の判断基準の変更

- 第1回、第2回

- 「開館」「閉館」の判断は、図書館の表現を優先しました。来館サービスを停止していても遠隔サービスを提供していれば閉館としていない場合があります。

- 第3回～第6回

- 「外部(組織外)利用者に対して「来館利用が可能」または「来館利用は不可だがOPAC以外のなんらかの遠隔サービスが利用可能と明示されているもの」を「○」としました。」

専門図書館として何が
「開館か」ということを
みんなで議論！！

調査結果に見る 専門図書館特有の傾向

- 2020年春以降ずっと休館
- 事前予約制の定着
- 非来館型のみでのサービス継続(「場」の無いライブラリー)
 - 遠隔でのレファレンスやILLを受付
 - デジタルアーカイブ
 - 資料の郵送

調査参加者の声

- そもそも「専門図書館」のリストがないことに驚いた。
- 一般公開されているのに「専門情報機関総覧」に載っていないところがたくさんあることがわかった。
- こんなに一般の人が利用できるユニークな専門図書館があるんだ！という新鮮な驚きがあった。
- 緊急事態宣言などで自宅にずっといたので、オンライン調査で交流できて楽しかった。
- ホームページをじっくり見るのが、意外にやったことがなくて面白かった。発見も色々あった。
- 興味のある分野の図書館や、行ってみたい地域の図書館が見つけれられたのが楽しかった。
- 共同作業をする役割分担などが勉強になった。
- どこまでを「専門図書館」として良いのか判断に迷った（閲覧室なし、利用対象者制限など）
- 「開館」の判断が難しかった。
- 回を重ねていくにつれて情報が充実していったので作業が楽になっていった。
- 規模が小さい分、Zoomでのレファレンスをぱっと始めるなど公共図書館より柔軟？

今後について

- 自ら「基礎リスト」に
 - 対象の追加
 - 東京都の専門図書館ガイド等、地域の公共図書館の類縁機関案内に掲載された情報
 - 公共図書館調査メンバーからの情報
 - 専門図書館関係者自身からの情報
 - 専門図書館や関係機関への周知
 - 調査結果の活用
 - 分類ごとの傾向の把握
 - ベストプラクティスの共有
- and more...